

●三位一体主日

泉のほとり

今日の詩篇「第二編」

畏れ敬って、主に仕え

おののきつつ、喜び踊れ。



神の子の霊を受けて

今日はペンテコステ、聖霊が来てくださったこの地上に教会が誕生したことをお祝いする日です。

ペンテコステは「五〇日目の祭り」という意味です。ユダヤ人たちが、過越の祭から五〇日目に麦の収穫を感謝して祝った祭りです。ちょうどその時に、弟子たちの上に、聖霊が降り、教会が誕生したのです。

聖霊が来られる前から、弟子たちは集まって祈っていました。そこへ聖霊が来られて、弟子たちはそれまで聞いていた主イエスの全ての言葉を思い起こし、その意味を悟ったのです。主の救いの業の全貌がわかり、自分たちが神の子にしたいと知りました。だからその時から、神さまを「天の父よ」と呼んで祈るようになりました。聖霊は弟子の集まりを、同時に神の子の集まりにしたのです。ですからどれほど多くの人が集まっても、皆が神の子の霊である聖霊を受けていなければ、それは教会ではないのです。

人間は二度生まれると言った人がいます。一度目はお母さんのお腹から生まれた時です。二度目は、初めて自分の口で「お父さん、お母さん」と言った時です。自分の親がわかり、自分がその子供とわかった時です。子供が初めて親である自分の名前を呼んだ時の親の喜びは大きいのです。その時、赤ん坊が子供になったのです。

それは天の父でいます神さまと同じです。わたしたちが生き方を愛して、天の父の名を呼んだなら、天使たちの間に大きな喜びがあると主は言われました。

今日の聖書の箇所を読むと、わたしたちの中で三つの方が働いているとわかります。ひとつは「体の仕業」です。誰もが生まれつき持っている、我がままに神さまに従わず、神さまも隣人も愛さない生き方をさせる力です。もうひとつは「わたしたちの霊」です。これは恐らくわたしたちの中にあつて「体の仕業」を悲しみ、神さまに従って正しく生きることを願う霊です。最後は聖霊です。天から降って来てわたしたちの中に住み、わたしたちに神さまの子供の心を与え、「天の父よ」と喜んで祈れるようにしてくださいる霊です。

聖書は「霊の力によって体の仕業を絶つならば、あなたがたは生きます」と言っています。わたしたちの霊と聖霊とで、体の仕業にストップをかけるのです。それは罪との戦いです。聖霊はわたしたちに罪と戦う力を与えてくださるのです。神さまは祈り求める者に必ず聖霊をくださると主イエスは約束されました。どうぞ祈ってください。聖霊をいただいて、心から喜んで「天の父よ」と呼べる人になりましょう。神さまがそれを願っておられます。

(ローマ八・八―一七)

祈り

○わが身とわが心を取り繕ういとまもなく、朝起き出でて、御霊に促されてここに集まって参りました。卑なる装い、あなたの御前に相応しい祝いの装いを整えているかどうか、自分でも定かではありません。しかし、主イエス・キリストの父なる御神、今ここに、主イエスご自身の衣をわたし共の衣となし、そのいさおしをわたし共のいさおしとして、あなたの御前に立つことを許してくださいいますように。心揺らぐ者に、主に根ざす確かな思いを与えてください。自分自身の姿を省みて悲しまずにおれない者に、共に生きる者に憤りを覚えざるを得ない者に、人を蔑む思いになお打ち勝つことのできない者に、どうぞ主の力をもつてこれらすべてに打ち勝ち、御顔のみを振り仰ぐ心を与えてくださいますように。

人の心が狭いことばかりを責めて、自分の心が、体だけだけ人を受け入れていくかを問うことのできないわたし共でありました。人の過ちやその弱き人を軽んずることを覚えてしまい、これを真実の悩みとするこのできないわたし共でありました。年老いた者にも、年若き者にも、それぞれに相応しく、それぞれの賜物を用い尽くして、あなたの御栄えを現す道があることを悟らせてくださいます

ように。どうぞ特別に若き人々をあなたが顧みてください。また、彼らが生きていきますこの国とこの世界とを御心のうちに留めてくださいますように。

年老いた者にも、誰からも見捨てられたと思っている者にも、望みを与えてください。あなたが見捨てられる人間はこの地上にひとりもないことを深く信じさせてください。肉体の弱さを持つ者に、肉体は衰えても魂の火は燃え尽きてしまうことのないことを、永遠の命の火が灯されていることを固く信じさせてくださいますようにお願いします。

この慰めを必要とする人がどんなにたくさんいることかと思えます。そしてそれらの人々に証しする教会の力の貧しいことを御前に思わざるを得ません。しかし、弱さの中にも恵みが全うされることを信じるのができますように。今、その力ある御言葉をお聞かせてください。御霊を注いでください。肉体も魂も捉えてください。あなたを礼拝する喜びに、ここに兄弟姉妹と共にいることに深い喜びを覚える心に導き入れてください。すべてあなたに栄光を帰する信仰の喜びを味わうことができますように。

主イエス・キリストの御名によって、感謝し、祈り願います。アーメン
(加藤常昭「み前にそそぐ祈り」より)

今日のお知らせ

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒーサーブিসと、園舎一階リズム室では、「ぶどうの会」が開かれます。どうぞご参加ください。

○第二礼拝の直後に、避難訓練を行います。礼拝参加者は一旦退堂した後、再び礼拝堂に入つて、訓練に参加してください。

○避難訓練後、ホールで、讚美と報告の会をします。お昼はお弁当です。

○午後二時から、ホールで、各部委員と、役員会の課題プロジェクト委員の懇談会を行います。参加予定者はお集まりください。

○今週一七日(土)午後一時から礼拝堂で、ピアノ教室の発表会があります。

○二〇一七年度の教員名簿が出来上がりしました。一応一世帯につき一冊ずつ皆さんの状況差し配布しましたが、更に必要な方には差し上げますので、事務所までお申し出ください。

ラバウルだより

日本滞在7週間の恵み

1983年途上回での
農業開発の奉仕をし始め
てからこの度の一時帰国



の間、日本でこんなにゆつくりした時間を始めて過ごすことが許され感謝しています。

例年2月と9月の一時帰国の時はコスモ石油への活動報告書のまとめで心も体も一杯で、主日礼拝への参加を最優先事項として守ってきました。この度パプアニューギニア国の就労ビザ更新のため4月19日に一時帰国しましたが、既に7週間日本に滞在しています。現地での仕事を考えると焦りも覚えるのですが、このような形で自由な時間があるため、実家のこまごまとした家の修理や掃除、両親への細やかな世話、ラバウルと関係のある方たちとの会議、ラバウル産力カオ豆とコーヒー豆の営業等々、中々充実した毎日です。

今まで一時帰国中は品川教会でもお客様のようないろりしかできなかったのですが、朝夕の聖書の会、老人給食、施設に

入られている教会員の慰問、ペンテコステの祝会参加等々、教会で学びの時間が与えられ、奉仕にも用いて頂き感謝です。

そのような中でも一番嬉しかったのは他教会に移られた元品川教会員に会うこと

ができたことでした。20〜30年ぶりで春原さんご夫妻、ゆかりさん、中島・光さん、倉知健一さん副牧師先生との再会は、まるで天国での再会を先取りした出来事のように思いました。今でもその時の喜びが心に残っています。6月18日(日)の主日は市橋先生に誘われて那須で教会を建てられた塚原武典ご家族をお尋ねする予定でいます。

道であり真理であり命であるイエス様を通して与えられるみ国に焦点を合わせた生き方を続けたいと思っています。

(春原 美知勝 兄)

聖書の会へどうぞ

6月14日(水)

●朝の聖書の会(10時)

「ローマ人であると聞いて恐れ」

使徒16章35〜40節

黄允湜 副牧師

●聖書の夕べ(19時)

「真実の王はどこに」

ルカ19章28〜40節

古村和雄 牧師

次週礼拝

●第1礼拝(午前9時30分)

讃美歌 讃21 363番

説教 「パン5つと魚2匹」

聖書 ルカ9章10〜17節

説教者 黄允湜 副牧師

●第2礼拝(午前11時10分)

讃美歌 71番 383番

詩 編 第2篇

説教 「キリストの優しさと権威」

聖書 II コリント10章1〜11節

説教者 古村和雄 牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 讃21 363番

312番

説教 「希望と誇りに生きて」

聖書 ローマ5章1～5節 (新約P279)

司式 山下 純一 兄

説教者 聖餐司式 吉村 和雄 牧師

前奏曲 「いと高きにある神にのみ栄光あれ」

J.G. ヴェルベ

○ 讃美歌 21 363番

1. み神の方は 山を起こし

海原を広げ 空を造る

深い知恵により 日は輝き

月は照りわたり 星もめぐる

2. み神はめぐみで 地を造らして

造られたものを よしとされた

見よ その不思議は 大海にも

わが歩む地にも 大空にも

3. 花も木も示す 主のみ栄え

雨雲も風も 主に従う

すべてのもの皆 みむねにより

造られ守られ ここに生きる

○ ソプラノによる讃美

「祈り」 G.フォル

○ 讃美歌 312番

1. いつくしみ深き 友なるイエスは

罪とが愛いを とり去りたもう

こころの嘆きを 包まず述べて

などかは下るさぬ 負える重荷を

2. いつくしみ深き 友なるイエスは

われらの弱きを 知りて憐れむ

憐みかなしみに 沈めるときも

祈りにこたえて 慰めたまわん

3. いつくしみ深き 友なるイエスは

かわらぬ愛もて 導きたもう

世の友われらを 棄て去るときも

祈りにこたえて 労りたまわん アーメン

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 67番 353番

詩編 第2篇 (旧約P835)

説教 「祈るときは」

聖書 マタイ6章5～8節 (新約P9)

司式 山下 純一 兄 / 聖餐司式 吉村 和雄 牧師

説教者 黄 允湜 副牧師

前奏曲 「いと高きにある神にのみ栄光あれ」 G.ベーム

○ 讃美歌 67番

○ ソプラノによる讃美

「祈り」 G.フォル

○ 聖歌隊による讃美

「全地よ主をたたえよ」

全地よ主にむかい ほめうたうたえよ

かしこみたえよ 来たりて喜べ

主こそ神にまし われらを統べたもう

われらはその民 その牧の羊

よろこび歌いて みかどを入りつつ

み名をばたたえて 大庭に来たれ

主はめぐみふかく あわれみとわに絶えせじ

主のまことかたく ときわに変わらじ

とわときわに アーメン

○ 讃美歌 353番

聖餐曲 「我ら聖霊を願わん」 G.ベーム

後奏曲 「マエストーゾ」 M.E.ゴッ

聖餐曲 「アンダンテ」 M.モスコッ

後奏曲 「マエストーゾ」 M.E.ゴッ

※礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。